

まちづくりの

さぽーとほっと 基金

市民の寄付が まちづくりを支える

市では、皆さんからの寄付を受け入れる「さぽーとほっと基金」を設置しています。この基金に寄付されたお金が、市民活動団体や町内会へ助成されることによって、さまざまなまちづくり活動が支えられています。



寄付

さぽーとほっと基金

22年度寄付金合計
約6,400万円

まちづくり活動へ
助成

● 団体や分野などを指定して寄付ができます

市に登録されたボランティア団体や町内会、NPO（非営利の市民団体）などを指定して寄付できるほか、福祉や子育て、文化・芸術といった分野などを指定した寄付もできます。なお、寄付をした場合、税の優遇措置が受けられます。

● 東日本大震災の被災者支援活動も応援

被災者への支援活動を行う市民活動団体への寄付も、新たに受け付けています。

■ 寄付するには

- ① 市民活動促進担当へ電話して寄付申出書（ホームページからも入手可）を取り寄せ、記入して送り返す。
- ② 納付書が届くので、銀行へ持参して寄付金を振り込む。

昨年度の寄付金は、福祉活動や子育て支援など、103団体108事業に助成しました。これまでに助成した活動の一部を紹介します。

高齢者の日常生活を支援 助成額10万円

助成先: さっぽろ福祉支援ネット「あいなび」

高齢者が通院する際の送迎から家の電球交換まで、さまざまな支援を行っている。

助成を受けて、高齢者宅の簡単な住宅修理や庭の手入れをする道具などを購入し、支援に役立てました。支援を必要とする方々は体が不自由な方がほとんど。そういった方々が施設に入らず、自宅で生活するには、介護保険サービスでは実施されない細やかな支援も必要なんです。利用者からは「どんなことも対応してくれて、ありがたい」と、とても喜んでもらっていますよ。

あいなび理事長
しもがわら きよみ
下川原 清美さん



地域の人を集め、歩行困難な状況を体感する催しなども実施している

親子向けに遊び場を提供 助成額50万円

助成先: 子育て支援ワークス「プトマト」

子育てイベントを開催するほか、親子や高齢の方など多くの世代が集まるカフェも運営している。

親子でゆっくり過ごしてもらうためのイベントを、9カ月にわたり定期的に開催しました。木の球が3万個入った「木の砂場」などたくさんの木のおもちゃを用意したほか、人形劇なども実施。お母さん同士で子育ての悩みを相談し合うなど、人のつながりもでき、「ありがとう」の言葉をたくさんもらいました。そんな感謝の気持ちを力に、これからも地域のために頑張っていきたいです。



木の砂場のイベントには、100人を超える親子が参加し大盛況だった

プトマト代表
きた ようこ
喜多 洋子さん



男性が集い料理で健康づくり 助成額10万円

助成先: 男が料理を作る友の会

管理栄養士などを招き、高齢の男性もできる調理実習や勉強会、講習会などを実施。老後の健康と食生活の自立を目指しています。



ミュージカルで世代間交流 助成額20万円

助成先: 札幌市民ミュージカル実行委員会

市民が手作りで舞台制作から衣装作りまでを行い、ミュージカルを開催。世代間の交流やミュージカルの普及を図っています。



札幌では、皆さんからの寄付や企業と行政の連携によって、市民・企業・行政が一体となった